

実践事例

学年	4年	
教科名	国語科	
単元名	新聞を作ろう	
指導計画 (全13時間)	1・2	新聞の特徴を理解し、どんな新聞を作るか話し合う。
	3	取材の方法とその特徴を知り、記事を書くためにどのように取材すればよいかを考える。
	4～8	記事を書くために必要なことを調べるために、取材をおこなう。
	9・10	見出しや割り付けを考えて、読み手にわかりやすく伝わるように工夫して下書きする。
	11・12	下書きをもとに、新聞を仕上げる。
	13	新聞を読み合い、感想を伝え合う。
本時の目標	新聞の特徴を理解し、書いたものを読み合い、進んで感想を伝え合うことができる。	
防災の視点(※)	(B)災害時の取組など、防災に関する事からについて調べたことを新聞にまとめ、発表する。	

本時の展開(13/13)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。		●各自で作った防災新聞
2. 完成した新聞を読み合い、感想をワークシートに書く。	○新聞の書き方で工夫しているところや参考になったところ、内容で初めて知ったことなどをワークシートにメモしながら読み合うようにする。 ※災害時の取り組みなど、防災に関する事からについて調べたことを新聞にまとめ、発表する。	
3. 書き込んだことを発表し合う。	○ワークシートに書いたことなど、読んだ感想を伝え合う。 ○さらに知りたいことや疑問が出たときには、学級全体でとりあげ、今後の学習につなげるようにする。	●災害や防災に関する資料
4. 単元の学習をふり返り、まとめる。	○単元の学習をふり返り、まとめとする。	

第4学年1組 国語科学習指導案

第4学年1組 27名

授業者 松本 悠

1 単元名 「アップとルーズで伝える」(光村図書)

2 単元目標

- ・考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。 【知識及び技能】
- ・段落の役割について理解することができる。 【知識及び技能】
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- ・考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉えることに積極的に取り組み、学習課題に沿って自分の考えを發表しようとするすることができる。また、伝えるための表現方法を知ることによって、より分かりやすく表現しようとする。 【学びに向かう力, 人間性等】

3 指導に当たって

【児童観】

本学級の児童は、男女仲が良く外で元気に活動する児童が多いが、短い休み時間等には読書をする姿も多く見られ、読書好きな児童が多い。また、ペア活動や話し合い活動を通じた体験的な学習に意欲的で生活の中での発見を学習につなげることのできる児童もいる。児童はこれまで、国語科の「すがたをかえる大豆」の単元で、中心となる語や文を捉え、段落どうしの関係を考えながら読んだり、写真と文章を対応させて読んだりする学習を行っている。さらに、「大きな力を出す／動いて考えてまた動く」では、事実と考えを読み分け、段落どうしの関係を考え、学習を深めてきた。しかし、説明文になると苦手意識をもつ児童が多くいるのが現状である。また、児童が書いた日記などを見ても段落がなく出来事を順に書いているだけの児童も多く、文章全体の構成や段落相互の関係を理解したり対比する事例等を提示して意見を書いたりする力は十分に身につけていない。

【教材観】

本単元では写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉えていく学習をする。テレビは児童にとって最も身近なメディアである。普段テレビを通してさまざまな情報を取り入れているが、その映像や写真は送り手の意図や目的によって編集された物である。しかし、そのことに気づいている児童は少数であると思われる。メディアを通して受け取っている情報は、制作者の意図に基づいて取捨選択されたものであることに気づかせ、相対化する視点をもつことができる教材である。また、新聞は記事と対応した写真が効果的に使われ、「アップとルーズで伝える」ことよさを捉えるのに適している。

【指導観】

本単元では、写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉えることを行う。まず、それぞれの写真を説明する段落を見つけさせ、段落同士が対比関係になっていることだけでなく、段落の中でも対比が用いられていることに気づかせたい。本単元は、次單元「『クラブ活動リーフレット』を作ろう」と密接に関係する。今回は、本単元で学習した説明の仕方の工夫を活かして、新聞記事から伝えたい写真や記事を選び「防災リーフレット」を作成させ自分の意見を発信させたい。また、教室に関連図書コーナーを設置し、新聞（小学生新聞）や説明文の本がいつでも読めるようにする。普段あまりじっくりと読むことのない新聞記事や説明文図書にふれることで本単元に向けて意欲的に学習を進めていくことができるように学習環境を整えたい。

4 観点別の評価規準

【知識・技能】

- ・段落の関係を理解している。
- ・考えとそれを支える理由や事例との関係について理解している。

【思考・判断・表現】

- ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。
- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。
- ・考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉えることに積極的に取り組み、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。

5 単元計画(全8時間)

- 第1次 全文を読み、初めの感想を書こう。 [1時間]
- 第2次 第一から第三段落を読み、筆者が「何を」「どのように」説明しているのか考えよう。 [1時間]
- 第四から第六段落を読み、筆者が「何を」「どのように」説明しているのか考えよう。 [1時間]
- それぞれの段落の役割を考えよう。 [2時間]
- 筆者の説明のしかたの工夫を考えよう。 [1時間]
- 第3次 新聞でのアップとルーズの使われ方から、その良さを考えよう。 [2時間 本時]

6 本時の目標

新聞での「アップ」と「ルーズ」の使われ方を対比することにより、両者から説明するうえでの良さを考えることができる。

7 防災の視点 (※)

新聞記事(写真)から被害情報などの防災関連情報を集め、災害の恐さや生活への影響に気づくこと

ができる。(B)

8 本時の展開 (7/8) 準備物：ワーク・小学生新聞・各紙の新聞

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
1 めあてを確認する。	○前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">新聞記事で「アップとルーズで伝える」ことのよさは何だろう。</div>	
2 新聞記事（小学生新聞）の2枚の写真からわかることを発表する。 ・氾濫した川の写真（ルーズ） ・空港ターミナルの写真（アップ）	○2枚の写真を提示し、それぞれがアップかルーズかを確認させる。(対比) ○写真からわかることを読み取らせる。 ※災害時の新聞記事（写真）から、災害の恐さや日常生活に及ぼす影響に気づくことができる。
3 「アップ」と「ルーズ」をどのように対比しながら説明しているかを考える。	○段落と写真の対応関係を考えさせる。 ○子ども新聞(一面)を教師が範読し、それぞれの写真を説明している文章を探させ、線を引かせる。(㊸ルーズ、㊹アップ)
4 「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさについて考え話し合う。	○線を引いたところを発表させ、それぞれの写真と記事の文章の対応関係をおさえ対比させることで、記事の内容がより分かりやすく伝わることに気づかせる。 ○記者は、それぞれの写真を使って何を伝えたかったのかを考えさせる。
5 ふり返りをする。	○ワークに分かったことや気づいたことを書かせる。 ○次時の課題（写真に題名をつける）を知らせ、「災害リーフレット」作りへの意欲を持たせる。

9 本時の評価

新聞での「アップ」と「ルーズ」の使われ方から、説明するうえでの良さを考えることができたか。

実践事例

学年	4年	
教科名	社会科	
単元名	命とくらしをささえる水	
指導計画 (全8時間)	1	水の使われる場所や目的を調べ、くらしにおける大切さを考える。
	2	水の使用量の増加とくらしの変化について調べる。
	3・4	学校や家で使われている水がどこから送られてくるのかを調べる。
	5・6	浄水場の仕組みを知り、働く人々の願いや工夫について考える。
	7	森林環境の保護の大切さについて考える。
	8	水を大切に使うために、自分たちにできることを考える。
本時の目標	限りある水を守るためには、森林環境の保護が重要であることを理解することができる。	
防災の視点(※)	(B)災害時の給水方法などについて考え、水が使えることの大切さに気づくことができる。	

本時の展開(7/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 写真を見て気づいたことや疑問に思ったことなどを話し合う。	○断水すると、水が使えないだけでなく、水を運ぶ必要がある。10Lのポリタンクを用意し、水を運ぶ体験をさせ、水が使えなくなったときの大変さを実感できるようにする。 ※災害時の給水方法などについて考え、水が使えることの大切さに気づくことができる。	●阪神淡路大震災のときに水を求めて並ぶ人の写真
2. 自分たちが日ごろ食べているものと外国の農業とのつながりについて話し合う。	○給食の献立に出てくる食べ物を育てるのに必要な水の量を調べさせ、水が貴重な資源であることを理解できるようにする。	●水不足で使えなくなった畑(アメリカ)の写真 ●環境省ホームページ「仮想水計算機」
3. 「緑のダム」について知る。	○日本が豊かな水に恵まれている理由について、水と森林の働きとを関連づけながら理解できるようにする。	●「緑のダム」図
4. 本時の学習を振り返る。	○本時のまとめをし、次時の学習課題を知らせておく。	

実践事例

学年	4年	
教科名	社会科	
単元名	地いきのはってんにつくした人々	
指導計画 (全5時間)	1	「稲むらの火」の話を聞き、地域のために尽くした先人について関心をもつ。
	2～5	地域の発展に尽くした先人について調べる。
本時の目標	「稲むらの火」の話を読んで、自分たちの地域の発展に尽くした先人にはどのような人がいるのか関心をもつことができる。	
防災の視点(※)	(B)安政南海大地震で津波に襲われた広村の絵図をもとに、地震発生時の行動について考える。	

本時の展開(1/5)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 絵図を見て、気づいたことを発表する。	※安政南海大地震で津波に襲われた広村の絵図をもとに、地震発生時の行動について考える。	●安政南海大地震で津波に襲われた広村の絵図
2. 「稲むらの火」を読んで思ったことを話し合う。	○津波がくることを想定してとった五兵衛の行動に注目させる。	
3. 自分たちの地域の発展に尽くした先人にはどのような人がいるのかを調べる計画を立てる。	○自分たちが住んでいる地域の発展に尽くした先人について、知っている名前を出し合い、学習する人物を決める。	

実践事例

学年	4年	
教科名	算数科	
単元名	折れ線グラフと表	
指導計画 (全5時間)	1	「折れ線グラフ」について知り、折れ線グラフを読んで気づいたことを話し合う。
	2	折れ線グラフの傾きと変化の度合いの関係をまとめる。
	3	気温の変化を折れ線グラフにかき、グラフの特徴や傾向を読み取る。
	4	波線の意味を知り、縦軸の目盛りのとり方が異なる2つの折れ線グラフを比べる。
	5	棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを読み取る。
本時の目標	折れ線グラフの傾きと事象の変化の度合いの関係を理解することができる。	
防災の視点(※)	(B)時間がたつにつれ防災意識が低くなっていることに気づき、普段からの備えの必要性について考える。	

本時の展開(2/5)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 折れ線グラフを見て、気づいたことを話し合う。	○「グラフの縦軸、横軸が表しているもの」「横軸の1目盛りの量」などを確認する。	●東京の気温の変わり方を表した表と折れ線グラフを拡大したもの
2. 東京の気温の変わり方を表した折れ線グラフの傾きがいろいろある理由を考える。	○折れ線グラフと表の両面から見るようにさせる。	
3. 折れ線グラフの傾きがいろいろある理由を発表し合い、関係を見出す。	○変わり方が大きいところと、小さいところはどこかを見つけさせる。	
4. 折れ線グラフの変化の様子についてまとめる。	○折れ線グラフの特徴とともに、そこから見える良さにも気づけるようにする。	
5. 「大地震へのそなえ」の折れ線グラフから気づいたことを話し合う。	※時間がたつにつれ防災意識が低くなっていることに気づき、普段からの備えの必要性について考える。	●大地震へのそなえ(「明日に生きる」p7)

実践事例

学年	4年	
教科名	理科	
単元名	天気と1日の気温	
指導計画 (全5時間)	1	天気と1日の気温
	2	1日の気温の変化(観察の方法と調べ方と観察)①
	3	1日の気温の変化(観察と考察)②
	4	1日の気温の変化(観測結果まとめ…グラフ作成)③
	5	観察結果とまとめ
本時の目標	天気によって1日の気温の変化のしかたに違いがあることを理解する。	
防災の視点(※)	(B)大雨や台風の日でも気温の変化があることに気付かせる。	

本時の展開(5/5)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 前時までの観察結果を想起させる。	○観察結果やグラフの作成について想起させる。	
2. 晴れの日と雨の日の気温の変化にどのようなちがいがあのかを考える。 [予想]	○自らの観察結果、グラフから予想をさせる。	
3. 観察結果、グラフを読み取り、考察する。	○観察結果から他の児童と大幅な相違がないかを確認する。 ○グラフの読み方に気を付ける。	
4. まとめ	○晴れの日気温の変化の特徴をおさえる。 ○雨の日気温の変化の特徴をおさえる。 ※台風時の気温の変化についてもふれる	●台風接近前後の気温の変化が分かる資料

実践事例

学年	4年	
教科名	理科	
単元名	電気のはたらき	
指導計画 (全9時間)	1	電気のはたらき
	2	
	3	
	4	
	5	かん電池のはたらき
	6	
	7	
	8	光電池のはたらき
	9	
本時の目標	モーターの回る速さを、光電池に当たる光の強さと関係づけて考察し、自分の考えを表現することができる。	
防災の視点(※)	(B)光電池が校内や地域に点在していることを知り、災害時に使われることにふれ、防災意識向上につなげる。	

本時の展開(8/9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 光電池はどのようなところで使われているかな。	○光電池が使われているものの実物等を用意し、光電池への興味・関心を高める。 ※地域に点在する光電池を利用したものについてふれ、災害時にも活用できることにふれる。	●光電池を利用した電卓時計等
2. 光電池を使ってモーターを回そう。	○日なたと日かげ等、条件を変えて、児童がモーターの回る速さの違いに気付くようにする。	
3. 光電池でおもちゃを動かして試したことをもとに予想しよう。	○教材用の光源を使って実験する。	
4. 光を当てたりさえぎったりして、モーターの回る速さを調べよう。	○さえぎり方によるモーターの回り方の違いに気付かせる。	

実践事例

学年	4年	
教科名	理科	
単元名	とじこめた空気や水	
指導計画 (全6時間)	1	とじこめた空気や水
	2	とじこめた空気のせいしつ
	3	
	4	とじこめた水のせいしつ
	5	
	6	まとめよう
本時の目標	閉じ込めた空気を押したとき、体積は小さくなることと、押し返す力が大きくなることを関係づけて、理解する。	
防災の視点(※)	(B)おしちぢめた空気の力を使って水が発射される消防器具があることを紹介する。	

本時の展開(3/6)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 実験の結果を、図や文で表そう。	<p>○空気の体積の変化が目盛りを読むことで調べられることに気付かせる。</p> <p>○ピストンを押すときの強さや手ごたえの違いに注意して調べさせる。</p>	
2. 結果からわかることをまとめよう。	<p>○空気の性質として、押す力と体積の変化、もとに戻ろうとする力の大きさの関係をわかりやすくまとめさせる。</p> <p>※まとめの際に、消防士が使用する消防器具にもこの性質が使われていることを紹介する。</p>	●高圧ポンプ式消火器等の写真

実践事例

学年	4年	
教科名	体育科	
単元名	着衣泳	
指導計画 (全2時間)	1・2	着衣時の水中での動きを体感し、その際の有効な対応を身につける。
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣時の水中での動きを体感するとともに、その際の有効な対応を知る。 ・水難事故に遭遇したときの対処法を知り、自分の命を守る技能を身につける。 	
防災の視点(※)	(C)水難事故等にあったときの落ち着いた対応の仕方を身につける。	

本時の展開(1・2/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 水着を着て、水慣れをおこなう。</p> <p>3. 着衣による感覚のちがいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンプ ・潜水 ・歩行 ・遊泳 ・岸に上がる など <p>4. どのようにすれば浮いて待つことができるかを考える。</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p>	<p>○着衣の重さにより、水着だけのときとはちがって、動きにくいことを体感させる。</p> <p>○水難事故にあったときには浮いて、救助を待つことが最善であることに気づかせる。</p> <p>○背浮やペットボトルなどを使って浮く方法など、疲労度の少ない浮き方を考えさせる。</p> <p>※水難事故等にあったときの落ち着いた対応の仕方を身につける。</p>	<p>●長袖Tシャツ・長ズボン・くつ</p> <p>●身のまわりにある浮くもの(ペットボトルなど)</p>

実践事例

学年	4年	
教科名	体育科(保健)	
単元名	よりよく育つための生活	
指導計画 (全1時間)	1	体がよりよく育つために、どのような生活を心がければよいかを考える。
本時の目標	体がよりよく育つためには、調和のとれた食事をとること、適度な運動を続けること、休養・睡眠を十分にとることが必要であることを理解する。	
防災の視点(※)	(B)慣れない環境で避難所生活を送らなければならないときの、上手な休養・睡眠の仕方について知る。	

本時の展開(1/1)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1. 本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 体がよりよく育つためには、どんなことが必要だろうか。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しく生活する。 ・バランスのよい食事。 ・早寝早起き。 ・外で元気に遊ぶ。 	<p>○3年の保健で学習した内容も思い出しながら、食事、運動、休養・睡眠のそれぞれに目が向くようにする。</p>	
2. 体がよりよく育つために、毎日の食事、運動、休養・睡眠でどんなことを心がけたらよいか話し合う。	<p>○体がよりよく育つためには、体をつくるものになるたんぱく質、不足しがちなカルシウム、欠かせないビタミンの3つの栄養素に着目できるようにする。</p> <p>○運動がもたらすよりよい育ちへの効果に着目できるようにする。</p> <p>○睡眠がもたらすよりよい育ちへの効果に着目できるようにする。</p> <p>※慣れない場所で睡眠をとるときの工夫について紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康な背骨」と「運動不足やカルシウム不足などですかすかになった背骨」の写真 ●成長ホルモン分泌量の日内変動を表したグラフ
3. 体がよりよく育つために、心がけるとよいことをまとめる。	○体のよりよい発育・発達には、調和のとれた食事、適度な運動、十分な休養・睡眠が必要であることを確認する。	

特別支援学級（自閉・情緒） 自立活動学習指導案

すみれ学級 2名

授業者 正木 隆博

1 単元名 こんなときどうする？

2 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、男子2名で全員4年生である。A児は、災害を想定した避難訓練では機敏に行動し、交流学級の児童とともに静かに行動することができる。はじめての事や先々の事で不安が募ることがあり、急な行事変更など突発的な出来事には混乱し、戸惑うことが多い。素直でまじめな学習態度でおおむね指示に従えるが授業中、生活面でも指を動かしたり声を出したりするなどの常同行動も出ることが多い。

B児は、学習中地震が発生した避難訓練でもすばやく机の中に入るなど災害が起きたときどう行動すべきか理解している。本人は、地震や災害、防災等に関する本に興味をもっていて、時間をみつけては読む姿が見られるなど防災に関する知識も多い。ただ、学習面生活面で気に入らないことや自分の考えと合わないことがあると暴言を吐いたりパニックになったりすることがある。パニックになると物や人にあたることがあるので、クールダウンするための場所と時間が必要となることが多い。

【教材観】

本校の避難訓練で、本学級の児童は1次避難所から2次避難所への避難について経験している。大地震や津波などの災害だけでなく最近の台風などの風水害においても数多くの人たちが避難所での生活を余儀なく強いられることが見られるようになってきている。本校は福良地区における津波などの災害の避難所に指定されているが、避難所や避難所での生活については漠然としたイメージをもっているだけで普段の日常生活といかにかけ離れたものか認識がないと思われる。また、どんなときに災害が発生するか分からないので家族と離れて1人で避難し、1人で避難所生活を送る可能性もある。

本学級の児童は、突発的な出来事に対して対応しにくいので、避難所や避難所生活の困難さについて知り、もし1人になったときの行動や心を、自ら落ち着かせる方法を探ることは必要である。備蓄倉庫にある簡易ベットや簡易トイレがどういうものか知り、実際に段ボールで自分の居場所を作ることで避難所生活の具体的なイメージをもつことができる。

【指導観】

指導に当たっては、まず地震、津波、風水害等で命に危険がある場合、避難所へ避難する可能性があることを知らせ、避難所の役割や機能について備蓄庫にある具体的な事物や写真を用いながら理解させたい。また、避難所での生活が、普段の生活と違って困難さがあることや1人で生活する大変さを理解し、もし1人になったときの自分の立場、心情を考えさせたい。そして、避難所での不安な気持ちから落ち着くための対処法を5年生の自然学校での避難所体験での居場所づくりを活用して、それぞれ自分で見つけるようにしていく。また、非常時において自分のできること、できないことを状況判断し、困ったことや手助けしてほしいことなどを自ら周囲に求めることができるように、様々な状況を想定した会話の練習をしていきたい。避難所での疑似体験を中心としたこの学習を通して、自分の命は自分で守り、災害が発生したとき自分から切り開いていくという意識をしっかりと持たせたい。

3 児童の実態と個別目標

	題材における実態	題材における目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を想定した避難訓練では機敏に行動できる。ただ、はじめての事や先々すべきことがわかっていないと不安が募り戸惑うこともある。 ・防災に関する知識はやや少なく、関心も低い。自分の気持ちを言葉で伝えるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組み、避難所について知り、もし1人になったときの心を落ち着かせる対処法を段ボールの居場所づくりを通して見つける。 【2－(1)(2)】 ・困ったことや手助けしてほしいことを自分から他者に伝えることができる。 【6－(5)】
B児	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した避難訓練では素早く机の下にもぐるなど迅速な行動ができる。ただ、しんどいことが嫌いでそのときの気分によって行動が左右されることが多く、指示に従えないことも多い。 ・防災に関する知識は多く、関心は高い。パニックになると落ち着くまでに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心おだやかに、落ち着いて学習に取り組み、避難所についてイメージをもち、1人になったときの心を落ち着かせる対処法を段ボールの居場所づくりを通して見つける。 【2－(1)(2)】 ・気持ちが落ち着かないとき、自分の心を安定させるために手助けしてほしいことを他者に言葉や動作で伝えることができる。 【6－(5)】

【2－(1)】情緒の安定に関すること

【2－(2)】状況の理解と変化への対応に関すること

【6－(5)】状況に応じたコミュニケーションに関すること

4 単元計画（全2時間）

(1) 地震、津波のこわさを知ろう [1時間]

(2) こんなときどうする？ [1時間 本時]

5 本時の目標

地震や津波の際、避難所で心が不安になったときの対処法を考えることができる。

【2－(1)(2) 6－(5)】

6 防災の視点（※）

避難所での想定される生活について知り、避難所での行動について考えることができる。

7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
1 毎日の運動をする。 2 学習のめあてを確認する。	○天井体操、バランスボール運動をさせながら、気持ちを落ち着かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地震や津波の際、避難所でどのようにしたら心落ち着いて過ごせるだろうか。</div>	
3 避難所生活・地震・津波等に関連した防災クイズを行う。 4 避難所の写真を見て、日常生活との違いを見つける。 5 避難所に自分がいたとするとどんな気持ちになるか考える。 6 自分が落ち着くための居場所づくりをする。 7 ふり返りをする。	○クイズをすることにより、前時の復習をしながら避難所生活への関心を高める。 ○子供たちに回答させる際は理由を考えさせる。がんばった時は「がんばりシール」を貼らせ、意欲づけとする。 ※地震や津波の怖さを知り、命を守る行動を考える。 ○パワーポイントで作成した資料を見せ、日常生活と違うところをさがさせ、何が困るか考えさせる。 *非常時の生活について知り、どんなことが困るかを考える。 ○効果音（大勢の人の声）を聞かせることにより、いろいろな音声や音（雑音）が避難所では常にあることを体験させ、自分の居場所づくりの必要性に気づかせる。 ○自然学校の避難所体験の様子を写真で見せ、心落ち着くような居場所を各自、自由に作れるよう支援する。 ※段ボールで作った簡易ベッドや簡易トイレなどを見たり体験させたりして日常生活とは違うことを理解させる。 ○ふり返りカードに「がんばりシール」を貼らせ、宿題は本時の学習をおうちの人に伝えることを伝える。

8 評価

避難所について知り、避難所で心が不安になったときの対処法を考えることができたか。

特別支援学級（肢体不自由） 自立活動学習指導案

たんぼぼ学級 1名

授業者 山川 眞美

1 単元名 そなえあれば うれいなし ～自分の命を守ろう～

2 指導にあたって

【児童観】

本学級は、4年生女子1名が在籍している。学校では、歩行器（状況に応じて車椅子）で移動をしている。一人でいることはほとんど無いが、もしもの時に助けを呼ぶために歩行器にかごを付けて、その中に防犯ブザーを入れている。まだ、実際に使う場面はなかったが使い方は知っている。事前に防災知識や避難についての簡単なアンケートを実施した。その回答から「状況に応じて行動は、どのようにするか」「災害に備えて自分ができること」「校舎の2階、3階にいる時、どのように避難するか」などについて意識が高くないことが分った。防災の学習では、あまり自分事として考えられてないようである。また、明るく真面目に頑張るが、教師と2人で過ごすことが多いので、「言わなくても分かってもらえるだろう。」と思っているところが見られる。また、語彙数が少ないため、どんな言葉でどのように言えばよいのかが分らず考え込んでしまう場面が時々ある。

【単元観】

災害発生時、肢体不自由児である本学級児童は、自力避難の困難さがある。閉じ込められた時、大きな声を出して助けを求めたり、自分で判断したりしなければならぬことがあるかもしれない。その時に、自分の体について理解し、落ち着いて安全に少しでも早く避難し自分の命を守ることにについて考える学習は必要である。また、いつ起こるか分からない災害に備え、必要なことは何かについて考えておくことは大切である。本学級児童は、考える事や自分の意見を他者に伝えることが苦手である。災害の時に起こるであろう様々な状況を想像させ、自分の命を守るには、どうしたらよいか考えさせる。災害発生時、また災害発生後、自分自身で「できること」「できないこと」があることが分かり、できないことについては、近くの人に自分からと助けを求めることが必要である。本単元では、自分の考えを自分の言葉で伝える学習活動が中心となる。この学習を通して、自分から大切なことをはずかしがらずに言える力を身につけることができると考える。

【指導観】

指導にあたっては、まず、自然災害は、地震や津波だけではなく台風、洪水、竜巻、土砂災害、火山噴火などがあることを理解させる。さまざまな自然災害がある中で、お家の人から話を聞いている「南海トラフ大地震」に備え、自分の命を守るために、地震発生を想定して学習を進めていく。第2時では、地震発生時に身を守る方法と助けを求める方法を考えさせたい。身を守る方法として「身を低く、頭を守って、動かない」を押さえておきたい。特に、避難をするときは、1階以外は歩行器や車椅子での自力避難は難しいことに気づかせる。自分の体の状態を理解した上で安全にできるだけ早く避難する方法については、時間をかけてやりとりをしながらじっくりと考えさせたい。本時では、地震が起こると日常生活で困ることを考えさせ、肢体が不自由なので必要な物があることにも気づかせたい。いつ起こるか分からないからこそ日頃の備えが大切なことを理解させたい。そして、地震に備えて準備しておけ

ばいいことの中で、本学級児童が、1番に思いつくであろう非常持ち出し袋について考えさせたい。非常持ち出し袋に準備する品物が、イメージできるように絵カードを用意し選んで貼る活動を取り入れる。さらに、非常持ち出し袋の準備だけでなく、地震に備えて自分にはどんな手助けや準備が必要かについても考えさせたい。単元を通して、防災学習に興味を持って取り組むことができるように、絵カード、ワークシート、状況カードでのクイズ、写真、絵本などを使用していきたい。また、学習活動の中で、自分で考え伝えることの大切さを分からせるとともに、自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせたい。学習のまとめでは、「備えあれば憂いなし」のことわざにも触れ、家庭との連携を図るために、本学級児童が自ら学習して学んだことをお家の人に伝えられるように働きかけたい。

3 児童の実態と個別目標

	単元における実態	単元における目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> 地震を想定した避難訓練では、自分で机の下にもぐることができ、身を守る行動は身につけているが、防災に対する関心はあまり高くない。また、自分で考えることや自分の意見を他者に伝えることは、苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体が不自由であるので、自力避難が難しいことを理解する。【1－(4)】 ・ 災害時、安全に行動でき、日頃から備えておけばよいこと・ものについて考える。【2－(2)】 ・ どんな状況でも、困っていることや手助けして欲しいことを自分から他者に伝えることができる。【6－(5)】

【1－(4)】 障害の特性理解と生活環境の調整に関すること

【2－(2)】 状況の理解と変化への対応に関すること

【6－(5)】 状況に応じたコミュニケーション能力に関すること

4 単元計画（全5時間）

- | | |
|-------------------------|----------|
| (1) 自然災害について | [1時間] |
| (2) 地震が起こったら | [2時間] |
| (3) 地震にそなえよう | [1時間 本時] |
| (4) まとめ（絵本「地震がおきたら」を使用） | [1時間] |

5 本時の目標

自分の特性を理解し、地震に備えて自分に必要なことを考え発表することができる。

【1－(4) 2－(2) 6－(5)】

6 防災の視点（※）

災害時に備えて非常用持ち出し袋を用意しておくことが必要であることに気づき、準備するもの考える。

7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 ラジオ体操 (座位)、エプロンの着脱をする。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○毎時間自立活動の最初に取り組んでいることを行うことにより、本時の学習への心の準備とする。</p> <p>○ラジオ体操では腕を大きく動かし、エプロンの着脱では丁寧にたたむことができるように声かけをする。</p> <p>○学習の見通しを伝え、本時のめあてを確認させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地震に備えて必要なことは何だろう</div>	
<p>3 地震に備えて必要なことを考える。</p> <p>・ライフラインが止まった時 (携帯トイレ)</p> <p>・手助けしてほしいこと (ヘルプカード)</p> <p>・非常持ち出し袋について</p>	<p>○地震が起こるとどんな困ることがあるかを考える手がかりとして写真 (地震発生後、避難所) を提示する。</p> <p>○地震が起こるとライフラインが止まることを具体的に考えさせ、いつもの日常とは違う生活になることを理解させる。</p> <p>○水が止まると多目的トイレが使用できないことに気づき、携帯用トイレが必要なことを分らせる。</p> <p>○肢体が不自由であることから車いすや歩行器は、必需品であることを理解させる。</p> <p>○自分ができることできないこと、手助けしてほしいことをヘルプカードにまとめさせる。</p> <p>※地震に備えるために非常持ち出し袋を用意しておくことよいことに気づかせる。</p> <p>○ワークシートに絵カードを貼る作業をすることにより非常持ち出し袋に準備するとよいものを視覚的に分らせる。</p> <p>※非常持ち出し袋に準備する物として選んだ理由やなぜそれが必要なのかを自分の言葉で話させる。</p>
<p>4 本時のふり返しをする。</p>	<p>○本時の学習でわかったことを自分の言葉で発表させる。</p>

8 本時の評価

- ・地震に備え、自分に何が必要かを考えることができたか。
- ・自分の気持ちや考えを自分の言葉で伝えることができたか。